

授受関係の方向性に関する日中両国語の比較

——日本語の授受補助動詞を中心に

陳 月吾* 周 莉莉**

Comparison of Japanese and Chinese about relationship's direction of giving and accepting

——With a focus on Grants verb of giving and accepting in Japanese

Yuewu Chen Lili Zhou

Abstract

Both the Chinese and Japanese languages have many expressions about relationship of giving and accepting. For those Chinese learners of Japanese, it is much more demanding for them to express this relationship, because generally the Chinese express themselves in an objective and direct way, while the Japanese do it in a more subjective way. Therefore, the Japanese expression of this kind of relationship has an orientation of subjectivity, which the Chinese do not have. Such phenomenon is to be studied in the paper, and it is expected that the conclusion would make some contributions to learners of both languages..

はじめに

中国語と比べ、日本語の授受表現には二つの顕著な特徴があると言える。一つは中国語にはただ一つの授受動詞——「給」しかないのに対して、日本語には「やる」「あげる」「さしあげる」「くれる」「くださる」「もらう」「いただく」の七つの授受動詞がある。従って、その授受表現も中国語より甚だしく複雑になっているわけである。もう一つは、中国語の授受表現は「誰かが誰かのために何かをする」を簡単に表すのに対し、日本語の授受表現は、授受補助動詞により、話し手の主観的な評価を加えたり、授受関係の恩恵方向性、内外の方向性及び恩恵方向の転換を巧みに表したりするのである。その点こそは、母語の影響を受けた中国人の日本語学習者にとっては、非常に身につけにくいところであり、日本語らしい授受表現があまり上手にできない重要な原因でもあると考えられる。従って、本稿では、『中日対訳コーパス』¹に収録されている『雪国』、『砂の女』など二十一冊の日本語小説の原文及び中国語の訳文を使い、日中両国語における授受関係の方向性について、日本語の授受補助動詞を中心に、比較考察を進めていきたい。

* 教養部

** 中国、中南大学外国語学院

1. 恩恵方向性

授受関係を表す時、中国語にはただ一つの「給」を用いるのに対し、日本語には七つの授受動詞がある。ただ単純な授受本動詞を使い、物事のやりとりを表現することは、中国人の日本語学習者にとっては、それほど難しいことではないようである。与える側と受ける側の立場を把握しながら、適当な授受動詞を選べば授受関係が簡単に表せる。しかし、授受補助動詞で恩恵のやりとりを適当に述べることは、そんなに簡単なこととは思えない。母語の影響を受けた中国の学習者が「誰かが誰かのために何かをする」のように、客観的かつ直接的に授受関係を述べがちである。しかし、日本語においては、さまざまな授受補助動詞で恩恵方向性をはっきり示すと同時に、主観的な評価も表すのが一般的である。

1.1² ～てくれる³

1、君から頼んでみてくれよ。

你帮我求求看吧。

2、東京へ売られて行く時、あの人がたった一人見送ってくれた。

我被卖到东京时，只有他一个人来给我送行。

1.2 ～てやる/あげる

3、駅長さん、弟をよく見てやって、お願いします。

站长先生，我弟弟就请您多照应，一切拜托了。

4、しかし僕には、なんにもしてやれないんだよ。

可是，我并不能为她做什么事。

5、お煙草を忘れていらしたらしいから、持って来てあげたんですわ。

您忘记带烟了吧，我给您送来啦。

1.3 ～てもらう/いただく

6、そうすれば女はさいわい素人だから、細君にもいい遊び相手になってもらえて、退屈まぎれに踊の一つも習えるだろう。

幸而这女郎不是风尘中人，可以请她给太太做伴，无聊时还可以跟她学段舞蹈解解闷。

7、うちへ寄っていただこうと思って、走って来たんですわ。

想请你到我家来坐坐，才跑过来的啊。

以上の例では、授受補助動詞に当たる中国語の訳語は、「帮/给/为/请」になるが、ただ恩恵のやりとりをありのままに述べる。実は、『現代漢語詞典』⁴によると、「帮/给/为/请」という語は「助ける」に当たると言われるから、文字そのものが人に恩恵を与えるという意味を持つのである。従って、これらの文字が後についた人称代名詞「我/您/她/你」と一緒に使われると、ある程度は恩恵の方向性を指すことができると考えられる。ただし、その恩恵方向性が日本語の授受表現ほど目立っていないのである。例えば、「1、你帮我求求看吧」を文字通りに訳したら、「私のために頼めよ。」に、また「7、您忘记带烟了吧，我给您送来啦。」が「お煙草を忘れていらしたらしいから、あなたのために持って来たんです。」に、「9、想请你到我家来坐坐，才跑过来的啊。」が「うちへ寄ってほしいと思って、走って来たんですわ」になる。このように中国語式な言い方は非常に客観的に述べると言うよりも、むしろ授受関係を取り扱う時に、恩恵の方向性と

いうことを頭の中でまだはっきり認識していないであろう。一方、日本語の原文を見ると、「～てくれる」や「～ていただく」などを使うと、恩恵の方向性がはっきりと目の前に現れてくる上に、他人側から自分側へと恩恵がいくという方向性、また、「～てあげる」などが自分側から他人側へといく恩恵の方向性も極めて明らかである。つまり、授受関係において、中国語には恩恵方向性があまりないが、日本語には恩恵意識が非常に強い上に恩恵方向性も持っているのである。

従って、そういう授受表現に関する日中比較が分かったら、中国語の「帮/给/为/请」文を日本語で話す時、まず頭に入れるべきことが恩恵の方向性である。しかし、以上の骨を覚えておけば日本語らしい授受表現ができるとは必ずしも言えない。かえって無視しやすくして間違いがちな問題が出てくる恐れがある。次の例を見てみよう。

- 8、これが覚えていてくれたの？
你是说它还记得我吗？
9、危いよ。帰るなら送ってやるよ。」
“危险哪。你要回去，我送你。
10、それじゃ、帰る時連れて行ってあげようか。
那么，我回去的时候带你同去好吧？
11、女中に使っていただけませんか？
你不能雇我当女佣吗？

以上の例では、中国語の訳文を読んでも、上に述べた骨としての「帮/给/为/请」がないことに気づいた。こういう場合では恩恵方向性を表す認識が出てこず、日本語らしい言い方どころか、直接に中国語式な表現になってしまうのである。例えば、例「8、你是说它还记得我吗？」を「これが私のことを覚えているの？」に訳す人が少なくないかもしれない。原文の「これが覚えていてくれたの？」と比べると、意味が大体同じであるが、原文に隠れている「これが私のことを覚えているから、私が非常に嬉しくて感謝する」という恩恵移動が全く味わえないので、かなり異なっているのではないかと思う。また、さらに学習者を困らせるのは次のような例である。

12、ほんの子供ですから、駅長さんからよく教えてやっていただいて、よろしく願いいたしますわ。

他还完全是个孩子，请您多加指点，拜托您了。

訳文の「请您多加指点」を「駅長さんがよく教えてください」に訳すといいいのではないかと考えている学習者がかなりいるらしい。原文「駅長さんからよく教えてやっていただいて」のように二つの授受補助動詞を重ね、「～てやる」で駅長から弟へと、「～ていただく」で駅長から話し手へとという二重の恩恵方向性を一つの文で表すことは、まことに不思議な言い方であり、日本語授受関係における恩恵方向性が確かに特別な存在であることが分かった。

ここでは、両国語の比較から、日本語の授受関係は、恩恵方向性を持つことが明らかになった。なぜ日本語では恩恵方向性がこんなに強いのか。アメリカの女流社会学者のルース＝ベネディクトは「一人の日本人を苦しめることはなんでもないことで、日本人に物を与えればよい。いつまでも、そのことを頭に持って、悩み苦しむであろう。」⁵と

言っている。金田一春彦は「日本人は物をもらいますと、そのままではいられない。何かこれを返してしまわないといられないのであります。」⁶と述べているが、確かに、日本人が物のやり取り、特に人間関係の扱いから生じた恩恵に対して非常に敏感だと思われる。そのため、日本人が授受補助動詞をよく用い、人との恩恵関係をはっきり表すことを好むと考えられる。従って、他人から恩恵をもらうと、恩恵方向性を通して、相手の恩恵に対する感謝の気持ちを伝えと同時に、必ず恩返しをしなければいけないということは日本人の極普通の発想ではないかと思う。このような発想が隠れている日本語の授受表現には、それが単に授受関係を取り扱うだけではなく、相手に対する思いやりの気持ちを表わすことにより、暖かい雰囲気も溢れていると思う。一方、客観的な言い方で授受関係を取り扱う中国語の授受表現にはそういう発想がないため、恩恵意識及び恩恵方向性がそれほどないから、相手に少し冷たい感じをもたらしかもしれない。

2. 内外の方向性

日本語の初心者には「私は李です。あなたは田中さんですか。」とか、「あの人は私の弟です。彼は小学生です。」とかいつも口にしていたが、その時、日本人の先生から「日本語で話す時、人称代名詞省略があっても言葉がやはり通じる場合なら、できるだけ人称代名詞を省略し、日本語らしくしなさい」と注意されたことがある。中国語では人称代名詞が多く使われることに慣れた中国の日本語学習者は、日本語授受表現による人称代名詞省略の場合では、いくら注意されてもうっかりして間違ってしまうということは非常に多い。日本語らしい日本語を目指す学習者にとって、これがもう一つの障りになるのであろう。以下の例を見てみよう。

2.1 ～てくれる 及び 第一人称代名詞の省略

13、これが覚えていてくれたの？

你是说它还记得我吗？

14、ねえ、次いでうちのも少し落としてくれない？

劳驾，顺便帮我们也扫一下吧，行吗

15、雨が降れば娘が迎えに来てくれます。

要是下雨，女儿会来接我。

16、東京へ売られて行く時、あの人がたった一人見送ってくれた。

我被卖到东京时，只有他一个人来给我送行。

17、うちの人はずいぶん大事にしてくれるのよ。

“那家人待我很好。

18、お友達と約束しといたから誘ってくれたのよ。

我同朋友约好了，所以她们才来邀我的。

以上の例では、中国語の訳文には必ず第一人称代名詞の「我」/「我们」を使い、授受関係における人称関係を明確に言葉で表す。しかし、日本語の原文では「私」/「私たち」などの人称代名詞に全然触れずに、その代わりに授受表現の「～てくれる」を使い、表れていない人称関係を巧みに伝えるのである。以上の例文では、「～てくれる」という授受補助動詞そのものは外から自分（内）へと恩恵が移動することを表す機能を持っているので、第一人称代名詞をほのめかすこともでき、人称代名詞が要らないわけである。

人称代名詞を明記したら、かえって違和感のある日本語になるかもしれない。

2. 2～てあげる/てもらう 及び 第二人称代名詞の省略

19、駅長さん、弟をよく見てやって、お願いします。

“站长先生，我弟弟就请您多照应，一切拜托了。

20、危いよ。帰るなら送ってやるよ。

“危险哪。你要回去，我送你。”

21、お煙草を忘れていらしたらしいから、持って来てあげたんですわ。

您忘记带烟了吧，我给您送来啦。

22、それじゃ、帰る時連れて行ってあげようか。

那么，我回去的时候带你同去好吧？

23、うちへ寄っていただくと思って、走って来たんですわ。

想请你到我家来坐坐，才跑过来的啊。

「～てくれる」と同じように、「～てあげる」、「～てもらう」なども恩恵移動を表す機能を持ち、第二人称代名詞をほのめかすこともできるから、第二人称代名詞が省略できるのである。ただし、「～てあげる」が内から外へとの恩恵移動を表すのに対し、「～てもらう」が外から内へとの恩恵移動を表現する。

2. 3～てあげる 及び 第三人称代名詞の省略

24、駒ちゃんはいいいんですけれども、可哀想なんですから、よくしてあげて下さい。

驹姐是个好人，可是挺可怜的，请你好好待她。

25、しかし僕には、なんにもしてやれないんだよ。」

“可是，我并不能为她做什么事。

26、また、男の足をつつんだ外套の裾が時々開いて垂れ下る。それも娘は直ぐ気がついて直してやっていた。

另外，裹着男人双脚的外套下摆，不时松开耷拉下来。姑娘也马上发现了这一点，给他重新裹好。

ここでは、例 24 が聞き手（外）から第三者（外）へ、例 25 が話し手（内）から第三者へ、例 26 が話題者（外）から第三者（外）へそれぞれ移動するが、恩恵の移動方向が少し違う。しかし、移動の目的地がすべて第三者であり、すなわち外への恩恵移動が共通である。この場合では、「～てあげる」は第三人称代名詞をほのめかしているから、省略できる。

従って、授受関係においては、中国語の“给”自体は動作の方向性あるいは授受の方向性はなく、「（他の人に）やる/してやる」にも「（自分に）くれる/してくれる」にもなる。もし人称代名詞がないとすれば、文は成立しえないのである。中国語と比べ、日本語に人称代名詞の省略があるのは、授受補助動詞そのものが内外の方向性を持っているからであると考えられる。

一方、以上の例では、授受関係における内外の方向性はただ関係者間の地理的な距離によるが、実に、両国語には心理的な距離からの内外方向性もあるようである。次の例を見てみよう。

27、三味線はほんの少しうろ覚えですもの、忘れたらもう浚ってくれる人もなし、音譜が頼りですわ。

三弦琴，真正記得很少很少，一忘記，就再找不到人給你復習了，只好靠樂譜。”

28、君が東京へ売られて行く時、ただ一人見送ってくれた人じゃないか。

你被賣到東京去的時候，不是只有他一個人給你送行嗎？

上に述べたように、「～てくれる」は外から自分（内）への恩恵移動を表すが、ここでは、受患者が第一人称代名詞の「私/私たち」ではなく、第二人称代名詞の「あなた」である。なぜ第一人称名詞をほのめかす「～てくれる」が第二人称代名詞をほのめかすことがもできるかという、心理的な距離における内外方向性に関係があるのである。ここでは、受患者は他人であるが、話し手は他人に関する授受行為を傍観する立場ではなく、「内」の自分側の人と考え、心理的に自分と一体化して語っていると考えられる。このような心理的状況には「～てくれる」という表現がまさにふさわしいではないか。この表現は、話し手と他人との地理的な距離がどんなに遠くても、その間の心理的な距離が何よりも近いと感じさせる。授受関係における内外方向性がこのように取り扱われるのは、中国語では見られないことである。日本語が心理的な距離で授受関係の内外方向性を把握することは、日本人の内外意識に関係があるからであろう。

以上の例を通して、授受関係を取り扱う際に、日本語では、まさに授受補助動詞そのものが内外方向性を持つが故に、人称代名詞をまったく必要なくなっているが、中国語では授受関係をはっきりさせるために、人称代名詞を使わなければならないということが示唆されている。

3. 恩恵方向の転換

『中日対訳コーパス』を利用し、日本語の授受補助動詞に関する例文を搜してみた際に、非常に面白いことに気づいた。すなわち、二十一冊の日本語小説における授受補助動詞文を調査した結果、「～てあげる」の使用率がずいぶん低いということが分かったのである。それらのうち、使用率がゼロである小説は十冊もあり、使用数が十文以下のは九冊、十文以上のは二冊しかないのである。そして、「～てさしあげる」の使用率を確認すると、驚くことに、二十一冊の小説においては、すべてゼロである。奥津敬一郎の「授受動詞文の意味と文法」によると、「～てあげる」は、AがBのために何かをする時、恩恵の移動が内或いは外から外へといく場合に使われるが、「～てさしあげる」は、使い方は大体同じで、ただの敬語である⁷と言われている。「先生、荷物を持ってさしあげましょう」とか、「李さん、今お茶を入れてあげますよ。」とかのように、「～てあげる/さしあげる」を口にした学習者は少なくないのである。そして、中国語では「A 帮/为/给 B に何かをする」という言い方は極普通である。もちろんこのような言葉そのものにはもともと恩着せがましい意味があるが、中国語ではそれほど強く意識されていないのは事実である。故に、母語の影響でまた「～てあげる/さしあげる」がつい口に出てしまうのである。

そこで、小説の調査結果を手掛かりにして、相手に恩着せがましい感じを与えないためには、どのようにしたらいいか、また日本語らしい表現には日本人のどんな発想が入っているかについて、少し考察してみよう。

3.1、「～（さ）せてもらう/いただく」の使い方

29、では、あした電話をさせていただきます。

那么，明天我给您打电话。

例 29 の中国語訳文を文字通りに訳すと、「では、あした電話をしてあげます/さしあげます。」になってしまうのである。原文は、「～てあげる/さしあげる」の使用を回避し、「～（さ）せていただく」を使うことによって、相手に恩着せがましい感じを与えないだけでなく、かえって相手を授恵側に変え、相手から許可をもらうから感謝或いは嬉しい気持ちで他人から恩恵を得るというように、巧みに他人の恩恵負担を減らしているのである。このように、日本語において、内から外への移動を外から内への移動に変えることは、授受関係における恩恵方向の転換と言ってもいいであろう。それに対して、中国語では授受関係を取り扱う際に、恩恵方向の転換がないのである。恩恵方向の転換は、人に対する日本人の思いやりをしみじみ感じさせると同時に、これがどんなにすばらしいことであるかも思わせる。こういう点では、中国人は相手に恩着せがましい感じを与える本意がないかもしれないが、いつも率直に、また話し手の思い通りに言い出すのが普通のようなのである。その原因は思いやりの発想が中国人の頭にあまり入っていないのではないかと思う。恩恵方向の転換から生じた思いやりに関する、日中両国語の異なった表現をもう少し見てみよう。

30、弟が今度こちらに勤めさせていただいておりますのですってね。お世話さまですわ。

听说我弟弟到这里来工作，要您多照顾啦。

31、率直に、ぼくの意見を言わせてもらえばだな、こんな家は、ぶつつぶれてしまったほうが、いっそせいせいするだろうと思うんだ！

我说一个老实中肯的意见吧，我觉得，这种房子还是推倒重来才弄得干净。

32、それに、宿泊料も、ちゃんと払わせていただきますしね……もともと、こっちで勝手に計算させてもらった、実費だけだね……かまわないでしょう？……

而且我还要付给你住宿费呢……只能照本来由我大致推算的实际费用呀……这可以吧……

以上の例では、原文の「～（さ）せてもらう/いただく」は他人から許可をもらってから、何かをすることを表すが、中国語の訳文では、「我弟弟到这里来工作」とか、「我说一个老实中肯的意见吧」とか、「我还要付给你住宿费呢」のように、他人からの許可と全く関係がなく、ただ話し手が進んで何かをしようとする言い方になっているのである。日本語では、前述した恩恵方向の転換は、ここにもまた現れていると思う。もともとは話し手（或いは話題者）自身が進んで何かをしようとするのであるから、恩恵はもちろん内から外へといく。しかし、他人からの許可をもらってから何かをすることを表現する「～（さ）せてもらう/いただく」を使うと、例 29 のように、恩恵方向はまた逆に外から内へと移動するようになっている。このような日本語の授受関係における恩恵方向の転換は他人への思いやりからであると思う。

また、「思いやり」については、『広辞苑』（P404）に「思いやり」とは「自分の身に比べて人の身について思うこと、相手の立場や気持ちを理解しようとする心」と載っている。確かに日本人との付き合いが深く進むにつれて、思いやりの素晴らしさに感動させられた学習者は少なくないようである。特に中国語で言いにくい場合では、日本語の思いやりの言い方を通して、自分の意見が伝えられるだけでなく、相手も慰められるのである。とにかく、相手の気持ちを察しながら、その立場に立っての話を進める日本人の思いやりは、独特な発想であるとともに、人間関係を非常に重んじる一つの証でもあると言えるのである。

ろう。

終りに

『中日対訳コーパス』にある日本語小説とその訳本を利用し、日本語の授受補助動詞を中心として、日中両国語の授受方向性を比較してみた。授受関係を取り扱う際に、日本語では恩恵意識、内外意識及び思いやりの発想が入っているから、恩恵、内外という授受関係の方向性及び恩恵方向の転換という特徴を持っていることが分かった。一方、中国語では、そういう意識あるいは発想は、それが全然ないとは言えないが、少なくとも薄いと言える。中国語の授受関係の方向性はただ「帮/给/为/请」のような独特な語及び人称代名詞を通して現れているから、授受関係を表す言葉も日本語ほど豊富ではないし、意味も日本語ほど複雑ではないことが分かった。日本語の授受関係は、言葉も意味も中国語のそれより豊富で複雑であるので、今後引き続き探求させていただきたい。

注釈

- 1、企画・開発機関 北京日本学研究中心 研究代表者 徐一平 馮志偉 嚴安生 収録内容 中国 23 篇、日本 22 篇とその訳本を合わせて 105 件 2003 年 7 月
- 2、『言語学入門』で分けられた恩恵授受関係のタイプによって、例文を三つのタイプに分類した。
- 3、『中日対訳コーパス』に収録されている二十一冊の日本語小説の原文を調べてみた結果、「～てくださる」の使用率がゼロであることが分かった。従って、本稿ではただ「～くれる」の例文について考察してみる。
- 4、中国社会科学院言語研究所詞典編集室 編 商務印書館出版 1991 年 10 月北京第 120 次印刷
- 5、ルース＝ベネディクト 著 『菊と刀』（日本語版） 株式会社社会思想社 1948 年刊行
- 6、金田一春彦 「日本語の特質」 『日本語』 第五冊 P173 上海外国語教育出版社 2002 年 1 月
- 7、『現代日本語文法大全』に載った奥津敬一郎の「授受動詞文の意味と文法」の P245-P247 の内容による。

例文の出所

- 1—28 『中日対訳コーパス』に載った『雪国』
- 29 《新編日本語 2》P326 周平 陳小芬 編 上海外国語教育出版社 2002 年 10 月第 22 版
- 30 『中日対訳コーパス』に載った『雪国』
- 31 『中日対訳コーパス』に載った『砂の女』
- 32 『中日対訳コーパス』に載った『砂の女』

参考文献

- 1、『中日対訳コーパス』に載った『雪国』、『坊ちゃん』、『こころ』、『あたし来る人』、『越前竹人形』、『布団』、『雁の寺』、『破戒』、『鼻』、『金閣寺』、『ノルウェイの森』、『黒い雨』、『野火』、『羅正門』、『青春の蹉跎』、『飼育』、『死者の奢り』、『砂の女』、『斜陽』、『痴人の愛』、『友情』
- 2、周平 陳小芬 編 『新編日本語 2』 上海外国語教育出版社 2002 年 10 月第 22 版
- 3、新村出版『広辞苑』 岩波書店 1998 年 11 月 11 日 第五版
- 4、ルース＝ベネディクト 著 『菊と刀』（日本語版） 株式会社社会思想社 1948 年刊行
- 5、陳生保 胡国偉 陳華浩 編 『日本語 5』 上海外国語教育出版社 2002 年 1 月第 15 回印刷
- 6、小泉保 著 『言語学入門』 大修館書店株式会社 1999 年 1 月 20 日 6 版発行
- 7、戦憲斌 編著 『現代日本語文法大全』 大連理工大学出版社出版 2000 年 4 月第 1 版

(平成 21 年 3 月 31 日受理)